

報告

第47回 日韓技術士国際会議に参加して

石原 亘

1. はじめに

2017年10月26日から28日まで、韓国・釜山広域市において、第47回日韓技術士国際会議が開催されました。釜山は古くより交易で栄え、現在は約350万の人口を有する同国有数の都市です。また、国際的な観光都市でもあり、市内とその近郊には名跡が点在し、日本人を含め多くの外国人観光客の姿も見受けられます。

そんな“開かれた”都市である釜山に相応しく、幅広い専門分野から多数の技術士が会議に出席しました(日韓合わせて241名が参加)。北海道からは、私と永田泰浩技術士の2名が参加しましたので、拙文ながらここに報告させていただきます。



写真-1 会場より眺める釜山の街並み

2. 本会議

本会議は10月26日にロッテホテル釜山にて開催されました。今回の大会テーマは「気候変化と自然災害への挑戦と対応」であり、日韓の技術士からテーマに沿った基調講演と討議がありました。双方の講演とも、近年の自然災害が前例による想定を超えていることが指摘され、技術士としてこれらの課題に臨機応変に対応していく必要性を痛感しました。

3. 分科会

本会議に引続き、分科会が開催されました。今回は6つの分科会(第1分科会「国土・資源・エネルギー・食品」、第2分科会「建設・安全・防災・危機管理」、第3分科会「技術者倫理・資格・教育・環境」、第4分科会「電気・電子・情報・通信・機械」、第5分科会「新技術・新工法・第4次産業革命」、第6分科会「英語発表」)が開催され、私は主に第2分科会での発表を聴講しました。分科会といえども、発表分野は多岐にわたり、例えば第2分科会では建設や水道のみならず、打上げ花火に関する発表もありました。この会議が分野の垣根を超えた交流の場であることを実感できました。



写真-2 分科会の様子

4. 日韓親善晩餐会

分科会後には盛大な晩餐会が開催されました。来賓として出席された日本総領事から「日韓関係は良い時もあれば悪い時もあるが、それとは別次元で、こうした国境を超えた技術士の交流の場が長きに渡って続けられてきたことは非常に大切なこと」との挨拶があり、この会議が長年にわたって日韓両国の架け橋として重要な役割を担っていることをひし

ひしと感じました。晚餐会の後半では韓国の伝統芸能の披露もあり、民族衣装をまとった女性陣が会場の盛り上がり華を添えていました。

5. 日韓技術士親善サッカー大会

本会議の前日には、恒例となっている「日韓技術士親善サッカー大会」が、釜山アジアド主競技場のサブグラウンドで開催されました。白熱極まったサッカー大会は、前半は日韓両チームとも拮抗した試合展開だったのですが、平均年齢で勝る(?)日本チームが後半に連続失点をしてしまい、試合結果は0-2で日本チームの惜敗となりました。

なお、私は控え選手でしたので、休憩時間中のフレンドシップマッチのみの出場でしたが、本格的な芝生のグラウンドを走り回って非常に爽やかな気分でした。

試合後は、日韓両チームでの懇親会がありました。飲んで歌って踊りながら、宵が深くなるまで釜山の繁華街で交友を深めました。



写真-3 激闘を演じた日韓両チームのイレブン



写真-4 大いに盛り上がった日韓両チームの懇親会

6. 研修視察

会議最終日の28日は、研修視察が開催され、金海首露王陵(紀元2世紀頃にこの地を治めた伽耶国の初代国王である首露王の墓)と洛東江河口エコセンターを見学しました。

ツアーガイドの話によると、首露王の皇后はインドのサータヴァーハナ朝の出身で、“韓国初の国際結婚”をしたことで知られているそうです。釜山の国際的な風土の源流はここにあるのかも知れません。

洛東江エコセンターは韓国最長の河川である洛東江の河口付近に位置する大型の環境教育施設です。付近は韓国有数の渡り鳥の飛来地で、河口側に設けられた展望スペースからは数多くの野鳥が観察できました。また、天井や床に木材が多用されており、林産/森林部門の技術士としては嬉しく思いました。



写真-5 洛東江エコセンター

7. おわりに

日韓技術士国際会議への参加は初めてでしたが、見るもの聴くもの全てが新鮮で非常に良い刺激になりました。

今回は聴講のみでしたが、次回以降も参加の機会があれば、技術発表を通じて北海道の魅力を国際的に発信できたらと思います。

石原 亘(いしはら わたる)

技術士(森林部門)

(地独)北海道立総合研究機構
森林研究本部 林産試験場

